

高津神社は高津町一番町にあり。府社にして仁徳仲哀應神履仲神功皇
后華姫皇后の六座を祀る。勸請の年月明かならず。唯貞觀八年朝廷此社
に奉幣使を遣したることは明かなり。元と大坂城址中しありしを天正十
一年豊臣秀吉が大坂に城を築きし時今の地に移したるなりといふ。本社
は南方に面して立ち堂宇宏壯也。高臺の頌碑あり。望烟亭あり舞臺あり
それよりの眺望はよく全市の瓦甍を双眸の中に收む。
道頓堀は安井道頓の開鑿せるもの西は戒橋東は日本橋までの間と言ふ
市下屈指の繁華地なり。北岸は所謂左衛門の狭斜地にして絃歌の聲は
夜絶えず。脂粉の香到處に溢る。ことに夜に至れば樓々の燈火溝水に
落ちて絃歌聲そらに遊子の思を惹くに堪へたり。橋を渡れば道の南
側に五座の劇場相並び北側には昔時いろは茶屋の名をとゞめると芝居茶
店相接しまことに一種特色なる一區を成せり。

千日前は此の細徑を南に入りたるところにある。紅白の幟幾十條とな
く風に翻りて雑然たる鳴物の音耳に喧し。これ皆種々の興行肆なり。即
ち大阪の淺草奥山と思へば間違なきものなるべし。千日前の奥に不動あ
り。流行佛にして名高し。
安井稻荷は安井道頓の靈を祀りたるものにして日本橋前の北端にあり。
難波に南海鐵道の難波停車場湊町に關西線の湊町停車場汐見橋畔に高
野線の汐見橋停車場三つ相並びて市の南方の交通路の門戸を爲せり。
これより今宮を經茶臼山に眞田幸村の偉蹟をたつね一心寺安井天満清
水寺大江神社夕日岡等の諸名勝を巡見し遂に四天王寺に至る。
四天王寺は大阪市中第一の名刹なり。天町に至れば五重塔の高塔雲を
摩し一大門ありて立つ。これを發心門と稱し扁額は聖德太子又は小野道
風の筆なりと傳ふ。西大門を入れれば北に輪藏南に五智光院萬燈陵あり。

東に長く通じたる廻廊の中に講堂全堂五重塔あり。此寺の構造は本邦建築學上第三期の標式を完全に具備したるものにして頗る研究に値ひせりといふ。五重塔ことに有名にして二重屋根の構造は珍重すべきものなりといふ。寺は天台宗にして聖徳太子が守屋を誅戮せし報恩の爲めに創建せしものなりと聞く。大阪市に遊ぶものは必ず一訪せざるべからず。天王寺停車場は此の南二町のとこにあり。城車線、淡町線の交叉するところにして奈良地方に赴くものは此驛より乗車するを便とす。これにて南區は見終りたれば一先づ梅田附近に歸りこれより西區を遊覽することすべし。梅田魚市場は大阪に於ける日本橋魚河岸を謂ふべきもの也。北區魚市場を開くに至りしは延寶年間にして爾來、噺場の名は市内に喧傳せられたり。生魚水揚の光景早朝開市の模様魚商人の群集雜沓するの状は、

東京日本橋魚河岸に異ることなし。大阪府應は江の子島にあり。木津川橋の對岸川口町に外國人舊居留地あり。阿彌陀ヶ池は堀江下通四丁目にある和光寺の境内にありて難波堀江の一部なりと傳ふれど如何にや。池に小橋を架し中央に放光閣と稱する寶塔を建つ。涅槃灌佛の兩會には賽客多し。土佐稻荷は舊土佐藩の藏屋敷内にあり。境内に合祀せる石宮は海上守護の神なりとて舟子の塞するもの多し。境内に合祀せる石宮は海上守護の神なりとて舟子の塞するもの多し。三軒屋に大阪紡績會社あり。安治川と尻無川の中間に位せる地は近年築港と共に開かれたるもの其東端九條町より港頭まで一里に過ぐ。今こそ此間は田圃なれど築港と共に

に大阪市の繁華は此方面に向ひて擴張せらるゝなるべし。新に開きし築港大道路に九條橋花園橋畔より坦々として西に通し電車は港頭に向ひて遠く駛る。此間の停留場は市岡田中八幡屋なり。築港は内港外港の二に分ち外港は南北突堤に由りて圍繞せられ中に橋及び數箇の船渠を包む。安治川口の北岸を基點とせる北突堤と尻無河口燈台附近を基點とせる南突堤とは西に向ひて海中に突出すること千四百余間其極端は釣形を成して相迫り港口を成せり。港口の幅百間にして一道の船路は夫れと同じ幅を爲して港岸に達せり。棧橋は長さ二百五十間水深優に一萬噸以上の汽船を横附にすることを得べしといふ。こゝにありて望めば大阪灣は深碧又深碧右に和泉紀伊の海岸の弓弦を張りたるごときを見前に四圍の青螺の淡々として將さに無からんとする眺め左に六甲摩耶の山翠を指さし氣象潤大精神自づから爽かなるを覺えざるもの

はなかるべし。蓋し大阪市中第一の風光と稱して可也。

(四) 大阪より神戸

尼ヶ崎町—西宮町—有馬温泉—寶塚温泉—摩耶山—神戸市

大坂より神戸に至る間に阪神電氣鐵道の新交通路を開き、東海官線に添うて西走せしめたるは、一昨年八年のことに屬すと記憶す。此の線路は梅田に起り、福島を經新淀川を鐵路の下流に於て渡り、直ちに尼ヶ崎町に向つて去る。汽車は梅田を出て、新淀川を渡り、神崎に至りて一停車場を置く。尼ヶ崎町は驛の南方十餘町の處にあり。人口一萬八千を有する都會なり。市の中央に尼ヶ崎城址あり。大永年間細川高國の據りしところなり。阪神鐵道線は近畿地方と丹波丹波地方とを連絡する唯一の交通機關なり。起點を尼ヶ崎に發し、神崎驛に於て東海幹線を南北に横り、攝津の北部を經て、丹波の篠山を過ぎ、遂に日本海々岸の名邑宮津町及び舞鶴町に至る。此間の名勝を

東海幹線は大坂灣頭に近く西の宮驛を過ぐ。西の宮町は人口一萬五千
豊の耶馬溪、甲の昇仙峽に似たりといふ。此間十一の隧道を穿つ。山水頗る美に、
武庫川の山峽、生瀬以北武田尾を過ぎ、道場に至る間、鐵道線路は高座山及び大
峰の山嶺を走り、其勾配極めて急なり。此間十一の隧道を穿つ。山水頗る美に、
東海幹線は、大坂灣頭に近く、西の宮驛を過ぐ。西の宮町は人口一萬五千

を有す。酒造家多く所謂灘目八郷の一なり。西の宮蛭子町中宇市庭町にあり。毎年一月十日所謂十日蛭子の
を行ひ賽者雲集す。廣田神社大社村廣田にあり。官幣大社にして此附近屈指の古社。
西の宮町を中心として展開せる一灣を舊稱打出ヶ濱といふ。風光明媚
にして、白帆の影織るが如し。應仁天皇の元年天皇の庶兄麿、芦忍熊の二皇
子兵を擧げて天皇を亡さんとして出發せんが爲めに、この打出の名を得た
りといへど如何にや。甲山は西の宮の東北にあり。汽車の窓よりこれを望むことを得べし。
形の似たるを以て一にこれをビスマルクヒルと云ふ。岡本梅林は西宮驛より西北二十町餘にあり。もとより多くの梅樹ある
にはあらねど、この附近梅林なきを以て春初は大阪神戸より行いて遊ぶも

の多し。
かくて汽車は住吉の小驛を過ぎ灘八郷の一なる御影町を経て遂に神戸市に達す。

六甲山は住吉より登山すべし。山頂の眺望頗る絶佳にして、この附近これに比すへきものなしといふ。住吉より二里余有馬道より登る。夏時は洋客の山上に摩耶山は六甲山脈中最も海岸に近く、且つ深樹を以て蔽はれたるを以て、一目これあり。此樹木深くして眺望の快に乏しと雖も、地の幽邃なるは附近多く其比を見ず。此地は赤松圓心の古戰場たり。城址を存す。

神戸市は本邦の二大通商港なり。地關西地方の要衝に當り、瀬戸内海の好地位を占め、大阪市を控へたるを以て、輸出輸入頗る盛に横濱港と雖も、或はこれが爲めに三舎を避くるの趣あり。ことに面白きは此市が横濱市と其發達を同うし、維新前までは蕭然たる一箇の漁村たりしことなり。東北

六甲山脈を帯び、摩耶再度應取の諸山を聳たしめ、これより海岸に向ひてや、低く、遂に海に至る。舊湊川水路は一小三角洲を長く海中に突出せしめ、西に兵庫港東に神戸港を形成す。東西二里十五町、南北一里七町、人口二十八萬三千を有す。

港に面するの地、或はこれと接するの地は概して平坦なるが、西北に至るに、從ひて地勢漸く隆起し、山手通山本通に至れば、一眸よく神戸の全景を俯瞰し、絶景の山影を明かに指點することを得。この平地と高臺とを連絡せる丘陵に安養寺山宇野山あり。諏訪山湊山は其高台の更に隆起せるものなり。鐵道線路は三の宮神戸に二箇の停車場を置けり。

神戸の沿革を記せむに、徳川幕府時代攝津國菟原郡に神戸村走水村二ツ茶屋の三村あり。人口稀少にして、海濱の一村落に過ぎざりしも、人これを稱して神戸の津と稱せり。今の神戸の中心は即ち此地にして、漁村登戸一

朝にしてかゝる熱間の區たらんとは誰か想像すべき。
見る。兵庫が豊臣氏時代に於て帆船林立家屋櫛比既に繁華なる港を爲し
居たりしは言ふを俟たず平清盛か一代の驕奢に耽りて遷都を試みたる福
原の地も實にこの一帯の地なること歴史に明かなり。また更にそれより
上古に溯りて紀元八百六十五年前後三韓常に貢を我國に納め其船舶は武
庫の地に集り亭館を置き方物を献じ大に我國に支那文明の粹を傳へたる
がその門戸たりし武庫の水門は即ち今の兵庫港なりとの説さへあり。さ
れど此の沿革は清盛が遷都を以て始まるを正しとすべし。清盛が經營
したる福原の都は今の夢野より福原を経て兵庫の海岸に至れる一帯の地
にして兵庫の築島町は當時經ヶ島と言ひて清盛が三十人の人柱を埋めて
以て辛うじて填築したるものなりと傳ふ。治承四年六月遷都は行はれた

れど其時皇居の築造も未だ完からざりしもの、如く安德帝を假に池大納
言頼盛の山莊に奉じたること史に見ゆ。而してその山莊は今の荒田町の
東北有馬街道の西古松数株繁茂せる權現池と呼ぶあたり即ちその址なり
しと言へり。新都の經營は充分に行はれたる如くなれど當時人心動搖し
て諸國の源氏既に兵を起し公卿百官また戀々として舊都を戀ひたりしを
以て同年十月再び平安都に歸輦あらせられたり。鴨長明方丈記に記して
曰く「其時おのづから事の便ありて津の國今の京に至れり。所の有様を
見るに其他ほと狭くして修里を割るに足らず北は山に添ひて高く南は海
に近くて下れり。浪の音道にかまびすしくして鹽風殊に烈しく内裏は山
の中なればかの木の丸殿もかくやとなか／＼に様かはりて優なるかたも
侍りき。猶空しき地は多く作れる屋は少し故郷は既に荒れ果て新都未だ成
あらん猶空しき地は多く作れる屋は少し故郷は既に荒れ果て新都未だ成

らずありとしある人皆浮雲の思を爲せり」と。當時の光景想見するに堪へたるにあらざや。平家滅亡後兵庫は再び以前の漁村となりしが南北朝の頃に至りて足利尊氏東上の亂あり。楠木正成は湊川に戦死し新田義貞は和田岬生田森に敗れ南朝遂に再び振はずなりぬ。かくて天正年間に至り豊臣秀吉覇を大坂城に唱ふるや兵庫は此時既に純然たる百貨輻輳の商業地として儼存し戸口蕃殖家屋櫛比街形全くなりて旅客四方より住民また漸く富み四國九州中國の海陸産物の大阪市に入るとは其發達愈々盛に諸國回漕の船は徳川氏中葉の頃即ち天明年間に至つては馴致養成せられたるがごとし。は皆な其津に湊り此時既に兵庫港の風俗は馴致養成せられたるがごとし。天明八年の戸籍帳によれば其時既に戸數は五千九百九十八軒人口一萬九千五百八十餘人を有せり。而して其住民は多くは商賈にして小賣商の他問屋仲

買商甚だ多かりき。且其住民の有せし船は總數七百八十二艘と注せられぬ。當時の兵庫津の區域は甚だ今日と大差なく沿海一里四町南北十九町にして東は湊川を以て界とし西は柳原を其の盡頭と爲し北濱南濱岡方の三區に分てり。而して一條の西國街道は西柳原の總門を入りて東柳原逆瀬川神明の三町を經小廣町に至りて少しく折れ北仲小物場木場木戸江川の數町を經て湊町總門に達せり。是より湊川堤防までは一町半に過ぎず。これより湊川の堤防に至れば松樹列を爲し松籟の聲濤聲と相交り眼下には二三の人家と弓弦のごとき波打際に白波の徂徠するを見るのみなり。今まで傳ひ來りし路は十町弱にしてとある蕭條たる漁村の中に入り、兩側には松並木二十餘株これに由りて西國街道のいかなる方向に走れるかを指し得るなり。願望すれば水田菜圃その左右に連り尙ほ堤下より

街道に岐れて斜に田圃の間を通ずる一條の捷徑あり。これ兵庫より神戸
村に赴く間道なり。その間道の極る處一區の墓地ありて、これは漁民の共葬
地なりき。想像せよ、東北には摩耶六甲再度の諸山翠微を凝して抱くが
とくこの平地を包み種々たる田圃の盡るところ、數竿の漁網高く夕陽に曝
したるを見る。月は暗し楠公墓畔の村と吟じけむ當時の騷客の慷慨も慥
ばれて、そゞろに昔を思ふに堪へじ。若楠公の墓はと問はゞ、僧夫漁師は肅
然として容を改め見よ、路傍に楠公之墓と記されたる標石あらん其處に北
に見ゆるは坂本の村それより畦道五町も行かば赤松十數株即ち其處ぞ！
と教へたるならん。あゝ、當時の寂寥實に斯くの如くなりしなり。
かくてこの寂寥極れる街道を去りて更に東すれば、人語歴落炊烟迷離こ
れ即ち走水村なり。村を擧げて纒かに百四十餘戸更に進めば、二つ茶屋に
至る民家は三百を出でざるべし。神戸村は其東に位し、前の二村に比すれ

ば、村域稍々大に人家五百を越えたり。文久慶應の當時は三村共に幕府直
轄の地にして、その沿革は兵庫と變りたるところなきもの、如し。西國街
道はこの三村の中央を横貫し、家々軒を、つらね街道の兩側には細く汚き
溝の通じたるを見る。概して家屋粗陋にして多くは茅茨を以て葺けるに
過ぎず。只街道の南海濱近く、四五の庫の長く連り合へるを見たり。こ
れ酒造業者の倉庫なり。住民多くは農に従事し、水夫の家また海岸に設
したり。走水天神社の傍に、軒の旗亭あり、これはかれ等が船を停めて酔を
かふのところなりき。神戸村の東に生田川流れ、それを隔て、生田宮村あり
買ふのたところなりき。神戶村の東に生田川流れ、それを隔て、生田宮村あり
樹木鬱蒼たる生田神社の森は、其前に長く八町餘の生田の馬場を起し、其堤
防には、櫻梅各々其妍を競ひ、其盡る處海に面して、一華表あり。神燈臺あり。
春光駘蕩の候は、遊客多く船より至り、往々にして、絃歌の聲を聞く。里人謠
ふて曰く、「ば、ぢや」と云はんすけれど、こんな馬場でも花が咲くと。

見よ當年の攝津名所圖繪を、一葉の挿畫はよく今人をして當時を追想せしむることを得む。
 これ維新前に於ける神戸と兵庫となり。誰か桑滄の變の急なるに驚かざるものかあらむ。
 兵庫は依然として舊の如し。神戸は如何にして開けしか。以下更にこれ説かん。
 幕府の末路外警頻りに至り、黒船浦賀に入りしより益々危急を告げ朝廷と幕府と其の説一途に出でず攘夷開港の二説天下に喧しく殆ど如何ともすべからざるに至りぬ。兵庫開港はかのアメリカの使臣ハルリスが幕府に迫りて従前開くところの下田函館の二港の他に神奈川長崎を開き更に三年の後に期して大阪兵庫を開くの許諾を得たるに始まる。時に安政三年十二月二十五日なりき。斯くて神奈川長崎は開港せられたるが其後朝廷

と幕府との意見常に相乖き朝廷は飽まで鎖國攘夷を主張し其間を遊説せる有志の徒は往々過激の言論を逞うし形勢次第に不穩に人心動揺して今にも天下は亂世とならんとするに至れり。而して攝津防禦の議は最も重要なる問題として朝廷幕府の間に唱導せられ文久三年三月二十一日時將軍家茂は其の實見を爲さんが爲め京都より大阪に下りて蒸汽船に駕し攝津一帶の海岸を巡視し同二十三日攝津兵庫の津に上陸し八部郡神戸村なる東海岸小野濱に其の床几を据ゑたるとあり。蓋し此地に海軍營所設置の議ありたるが爲めなり。而して海軍營所設立は幕臣勝安房守義邦の建議するところ義邦は安政七年自から我軍艦咸臨丸を率ひて獨力太平洋横断を敢てしたりし人其の知識と議論とは優に當時有志家の中に數歩を擡てたりしなり。彼建議して曰く規模は須く大なるを要す海軍を擴張し營所を兵庫と對馬とに設け其一を朝鮮に置き遂に支那に及ぼし三國合縱

連合して以て西洋に抗すべしと。此月二十四日かれは攝州神戸村海軍所
取建御用兼攝津防禦掛を命ぜられ爾來熱心にその事務に當り寄宿所を造
り訓練所を設け西南諸藩の青年を教練して大に海軍の振興を圖れり。且
神戸川崎の宮崎津和野田の五ヶ所に砲臺を築き以て攝津防禦の實を
擧げんと試み其竣工するや其教練を加へたる各藩の少壯を以てこれを守
備に充てたり。此時兵庫附近には無頼の徒横行し常に害を無辜の市民に
加へたるを以て市民はこの砲臺守備の少壯に頼りて以て大に心を安んず
るを得たりといふ。元治元年十一月不幸にして義邦幕府の嫌疑を得て江
戸に召喚せられこの事業全く瓦解に終りぬ。當時の海軍局は生田宮濱の
舊生田川の西岸に沿ひ大阪街道に臨み終りにありて薩長兩藩の外船を砲
撃したる大事件起り續いて征長の詔勅出て京都大阪兵庫の間志士浮浪

の集るもの雲のごとく物情頗る騒然たりき。翌年八月イギリスフランス
アメリカオランダ四國の聯合艦隊は下の關を砲撃し一度償金三百萬弗を
約して長藩と和せしと雖もその示威運動は益々盛に幕府が長藩再征の師
を起さんとすの虚に乗じて頻りに開港の約を實行せんことを迫り慶應
元年九月十五日遂にその聯合艦隊は九隻の艦を率ひて隊伍整齊來りて
兵庫の港内にその錨を投ぜり。兵庫神戸の人民はこれを見て驚くこと一
方ならず巷説頻々として皆な戦争の開始せらるべきを説き少時も安んず
はなかりき。幕府の閣老は一方この恐迫に逢ひ一方國內の騷擾に鑑み遂
に兵庫の先期開港を諾せり。幕府は先に千八百六十三年即ち文久三
年を以て兵庫大坂の開港を條約中に約したるなれど神奈川開港の結果の
甚だ好しからざりしを以てアメリカ公使に通牒して千八百六十八年即ち
慶應三年十二月未まで延期しつゝありしなり且つ兵庫を先期開港せば下

の關砲擊の價金を半減すべしと談判ありたり。されど朝廷は兵庫の糞穀の地に近く萬一の變あるを慮かり容易にこれを許容せず幕府の混迷實に狀すべからざるものありき。是に加ふるに征長再度の役は全く失敗に畢り將軍家茂は焦慮苦心の餘遂に大阪城に客死し混亂更に一層の混亂を見たり。ふるに至れるをや。而して兵庫は慶應三年五月に至りて漸く開港を見た

かくて開港後種々の變遷を経て以て今日に至りしなり。

神戸を遊覽せんと欲せば先づ神戸停車場を下り一條の道路を真直に進むべし。忽ちにして楠公社に至る。

三株月黒の夜に詩人の腸を斷ぜし地なり。湊川神社は明治維新以後の創

建にして其の嗚呼忠臣楠子之墓の石碑は其門を入りて左の松樹疎々たる

處にあり。市民はこの境内を楠公様と稱し其境内には種々なる見世物興行肆等相並び其喧騒恰も淺草及び千日前に似たるものありて頗る俗氣紛々たりしも近來神聖なる境内を汚かすの故を以て漸次取締を命せられ稍々瀟洒の趣を呈するに至り。

湊川神社の北四町楠寺あり。傳へ言ふ楠氏の一族七十三人の自裁せしところと。又湊川神社の東門前に大なる建築あり。これ神戸地方裁判所也。

湊川神社を出て、其の多聞通を北に進めば一二町にして有名なる相生橋に至る。

相生橋は大坂に於ける高麗橋京都府於ける三條橋と均しく交通起算の里程標は實に其の橋畔にあり、橋の基盤稍々高く東北は元町の繁華なる街路を望み西南は多聞通の坦路直ちに楠公社前の繁華に接し南と西との西部には鐵道作業局の工場を始めとして幾多の大小工場それより遠く川の崎造船所の烟突の林立して煤烟天を蒸すを望み市の活躍せる光景は宛然

として眼下にあるがごとくなるを覺ゆ。
 相生橋の東南鐵道線路より海岸に至る一帯の地區は市の業務區をなし、橋を下れば相生橋警察署あり之と隣りて神戸市役所あり其背後に商業會議所あり。電話交換所は一道の大路を隔て、これと相對せり。郵便局は榮町六丁目と相生町と相交せる東南の一角にありて、其建築頗る宏壯なり。
 榮町通は商業的發達を爲せる元町通と交通的發達を爲せる海岸通との中間に位し、其町數は六丁目あり。此街路は神戸市金融の中心とも稱すべし。銀行會社等甚だ多く、一丁目には三井銀行支店、日本銀行支店、三井銀行支店、日本銀行支店、四丁目には北濱銀行支店、正金銀行支店、三井銀行支店、日本銀行支店、五丁目には三井銀行支店、三十八銀行支店、浪速銀行支店、六丁目には三井銀行支店、日本銀行支店、燈株株式會社等あり。
 敦れも家屋宏壯にして、一見神戸の中樞を

占めたるを覺ゆ。
 元町通は相生橋より通ずる坦途にして、榮町通と相並行し、商賈軒をならべ、豊を列ねて、百貨一として辨ぜざるなく、往來また頗る繁華に、東京に於ける小川町通大阪に於ける心齋橋通等甚だこれに似たるを見る。
 港は横濱港に比して、其規模稍々小なるやの感あれども、船舶の輻湊帆檣の林立は蓋し彼れに過ぐるものあらん。港は舊湊川の河口川崎町の絶端と元居留地の東南端と東西相包擁し、中に棧橋を設くること五最も西なるを鐵道棧橋と稱し、辨天町の一角にあるを米利堅波止と稱し、最も東に離れたるを棧橋會社棧橋と稱す。而して普通船客の乗降するものは、第三波止及び米利堅波止なり。海岸通は弓弦の形を爲して港と相面し、その片側町にはメサシユリーメリタム會社、ヒオー汽船會社、北ドイツロイド汽船會社、カナ

影の多くは元居留地は今明石町播磨町浪花町京町江戸町伊東町と稱し外國の商賈
多居處に住めり。街路は縦横に四格子形を爲し車道には美しき楊柳の
來れば海岸通は此處に盡きて元居留地の洋館多き街路は忽ち其前に顯れ
過れば海岸通は此處に盡きて元居留地の洋館多き街路は忽ち其前に顯れ
歩一小屋あり。中に大砲を安置せり。これ午砲發射所なり。其れを距ること數
は争ふべからず。第三波止の附近に水上警察署あり。其れを距ること數
の點より見ても街路より見ても横濱の海岸通に比すれば一籌を輸したる
宏壯なる建築なり。されどこの海岸通は其の風光の點より見ても其家屋
呈せり。其他旅亭また多くオリエンタルホテルメトロポールホテル等皆
相櫛比し家屋の構造また自から一種貿易港以外に見るべからざる特色を
大太平洋鐵道會社日本郵船會社等の運漕會社及び各國の貿易商代理店等
相櫛比し家屋の構造また自から一種貿易港以外に見るべからざる特色を

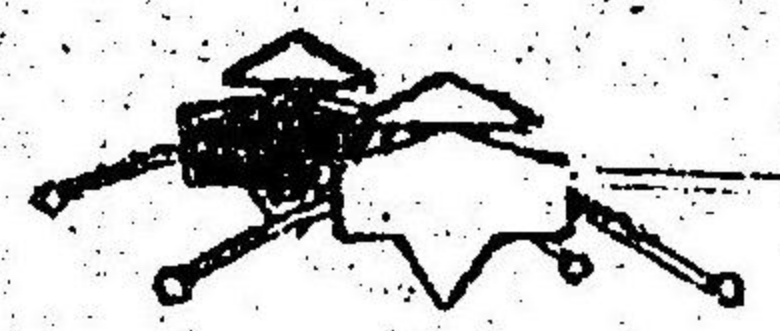
と相隣りて棧橋會社あり。其の棧橋は長く海中に突出して、荷物の揚卸甚
だ盛なり。遊園地は地形稍々隆起し其東に舊生田川の流路を殘せり。其區域甚だ
廣からざれども其丘地の老松は維新前までは生田川の堤防たりしものと
て老幹蟠屈蒼翠年を閱して其風致頗る愛すべきものあり。且其域内には、遊
美しき芝生の運動場ありて時々洋人の球技を試むるを見ることあり。遊
園地の南に隣り瓦斯會社あり、又其東に外國人墓地あり。遊園地を出て、
三の宮に向へば神戸警察署あり。三の宮神社は一小祠たるに過ぎざれど
も祭日には來り賽するもの多し。
生田神社は北長狹通一丁目と二丁目との間を北に向ひたる處にあり。
爵蒼たる森林の中一箇の華表の高く街頭に立てるを見る。官幣中社にし
て神功皇后攝政元年の創建と稱し祭神は稚日女尊なり。壽永年中源平の

誦訪山公園に至る。其の眺望の絶佳なる、眼下に神戸市の瓦葺港頭の汽
 船碇泊の状を隔て、紀泉の如くなるを、見人をして思はず佇立願望歸るを
 石の海岸のさながら、弓弦の如くなるを、見人をして思はず佇立願望歸るを
 忘れしむるの趣あり。園中に金星臺あり。これ佛人が特に此地に來りて
 金星經過を觀測せし紀念の爲めに設けられしものなり。地温泉を湧出し、
 浴客來り遊ぶもの尠なからず。近年市は更にその山嶺を開き、公園の設備
 を完うせるを以て、この地は更に一層の眺望を加ふるに至れり。旅館多く、
 常盤花壇中常盤等あり。園の西方森林の中に、諏訪明神の祠あり。これよ
 り山本通を西に向へば、宇治山の丘陵の東端に、測候所あり。常に天氣豫報
 の信號旗を掲ぐ。
 湊川の遊園地は、湊川改修の結果として開かれたるところにありて、以前
 楠公社内にありし興行物劇場等は、此處に移轉して、喧騒の聲街に遍ねし。

戦に梶原景季が籠に梅花を挿して奮戦したりといふ生田森は即ち是地に
 して形見の古梅なるもの境内に存せり。其他梶原井教盛墓等あり。社殿
 は壯麗なる結構にして、維新前は田圃の中に、例とし、春光一たび至れば
 海岸に通じ、客は皆海上より船を捨て、來るを例とし、春光一たび至れば
 花を松間に訪ねて、酒に酔ふもの少なからざりしといふ。誰か五十年の
 後紅塵萬丈の裡に埋れんとは、想像すべき。これ兵庫縣廳にして、
 正門は北長狹通に、一角赤煉瓦の一大洋館立てり。この頗る偉麗なり。其
 附近に縣會議事堂、警察本部、高等女學校等あり。神戸女學院は山本通に
 附立の宗敎學堂、警察本部、高等女學校等あり。其設備の完全
 せる、各府縣高等女學校に、ど設立の年久しく、其校舍の宏大なる、其設備の完全
 院あり。

川崎造船所は船舶機械の製造を目的としたるもの川崎氏の經營にか
 り五千噸以上一萬噸の商船を作成すべし船渠を有せり大阪商船會社
 が揚子江船路に使用せる輕吃水船大元大利の二船及び清韓兩國の小軍艦
 にして此處に造られたるもの多し
 兵庫の地にて見るべきものは逆瀬川町の清盛塔眞光寺の金銅釋迦像平
 政の琵琶塚能福寺の大佛鐘淵紡績會社工場等
 和田岬の風光明媚なり湖入の池を穿ち瀟酒なる家屋を構ふ凭つて以
 り眺望の快を恣にするべし此地は建武年中新田義貞が尊氏東上の軍を拒
 ぎしところ當年を追想すれば感慨止むべからざるものあらん園の西に
 本間孫四郎遠天の碑あり又當年を語る

(完)

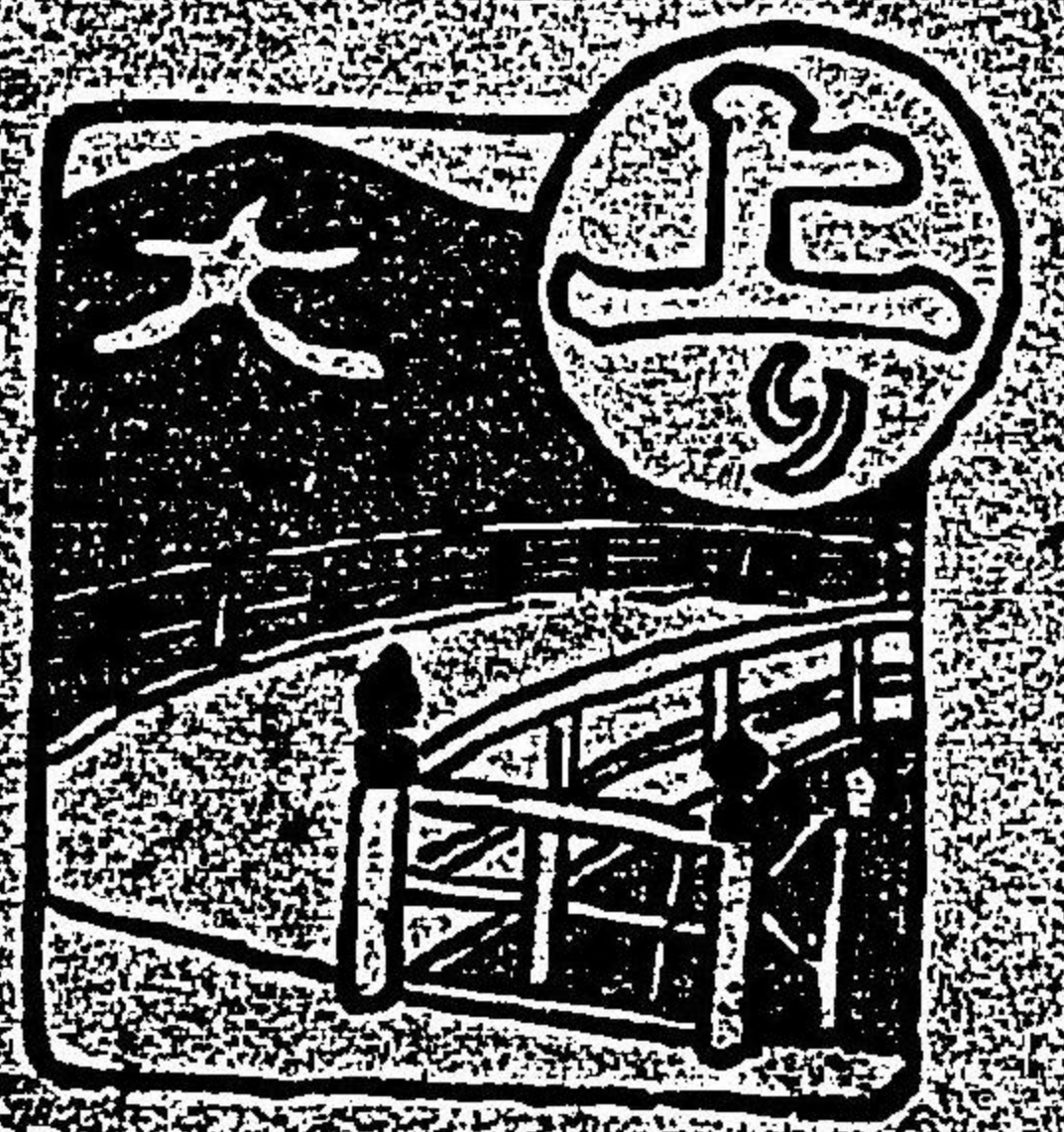
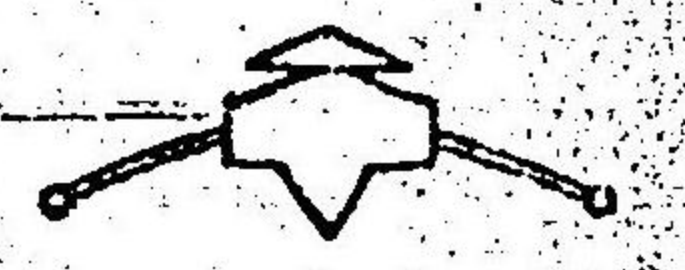


不許複製

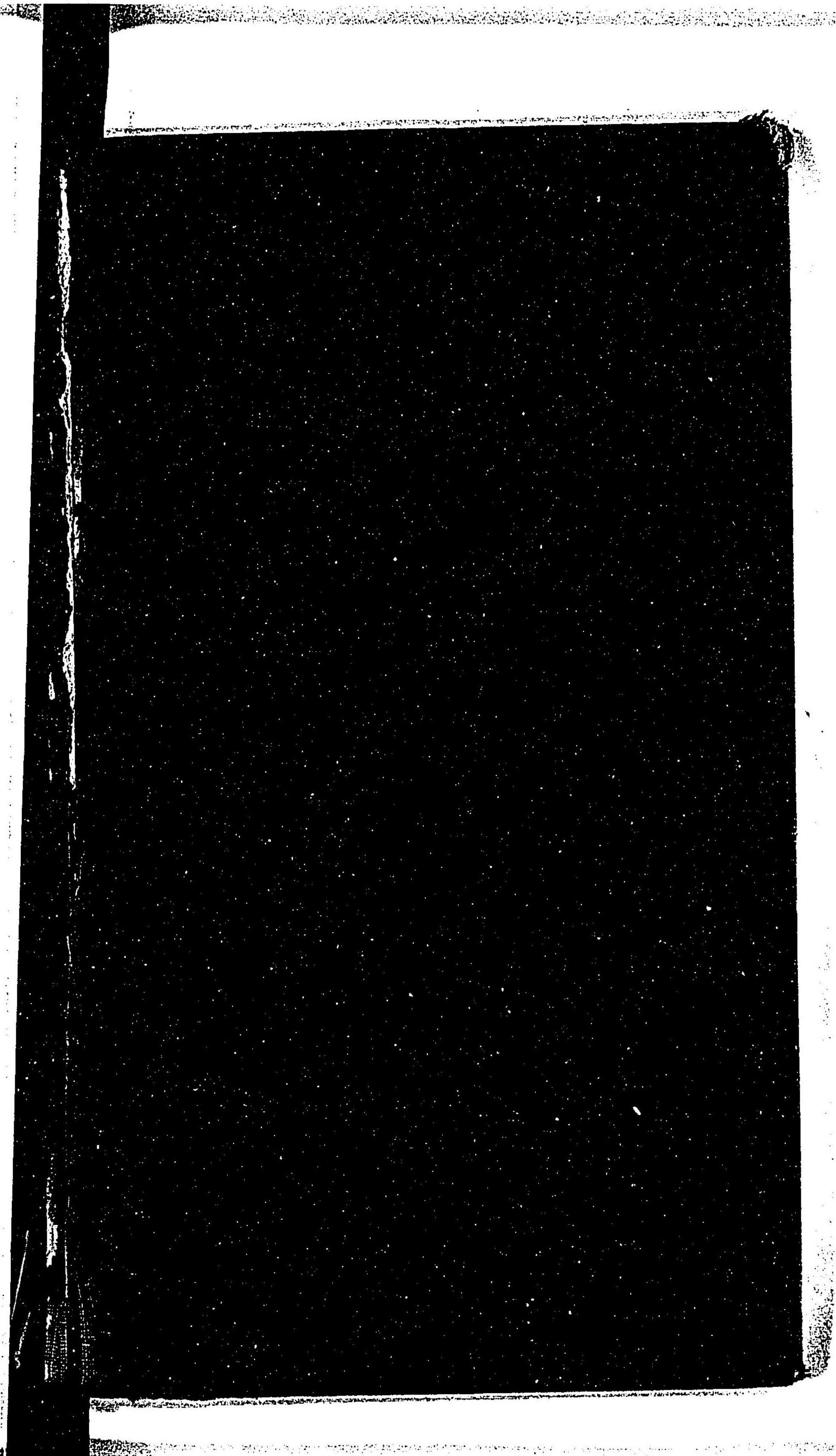
定價金壹拾錢

發 行 所	發 行 所	印 刷 者	印 刷 者	發 行 者	著 者
東京 市 日 九 番 地 區	東京 市 日 九 番 地 區	東京 市 日 九 番 地 區	東京 市 日 九 番 地 區	東京 市 日 九 番 地 區	田 山 錄 彌
大 倉 書 店	服 部 書 店	台 株 式 英 金	石 川 金 太 郎	服 部 國 太 郎	

明治三十九年八月三日第壹版印刷
 明治三十九年八月六日第壹版發行
 明治四十年八月九日增補第二版印刷
 明治四十年八月九日增補第二版發行



30
441



30
441

022775-000-7

30-441

日本新漫遊案内

田山 花袋 / 著

M40

ADB-0571

